

研究の取組

藤岡市立小野中学校

○ はじめに

本校は一昨年度より、「群馬の中学生 英語4技能スキルアップ事業（県教委）」、並びに「西部地区小中一貫外国語（英語）教育充実事業（西部教育事務所）」の指定を受け、研究に取り組んでいる。

平成26年度よりスタートした小中一貫教育の取組の中で、本校英語科教員が小学校外国語活動の指導を兼務するなど、9年間の学びのつながりを大切に実践を重ねてきた。本年度は1名の英語科教員が、小学校6年生の外国語活動を担当している。

このような取組を基盤として、小野連携型小中一貫校として、4技能をバランスよく育成する英語指導の在り方を明らかにし、生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上を目指している。

1. 英語科における目指す子ども像

小野連携型小中一貫校の共有する子ども像として、「夢に向かってかがやく子」を掲げ、小野中学校では「学びをもとに、主体的に判断・表現できる生徒」を目指した学校づくりに取り組んでいる。小中共通の外国語活動・英語科の指導の重点である「相手を意識して自分の考えをわかりやすく英語で話し、相手の話を興味をもって聞くことができる子」を踏まえ、中学校段階における目指す子ども像として「身に付けた語彙や文を適切に用いて、自分の思いや考えを英語で伝え合うことができる生徒」を掲げ、4技能をバランスよく育成するための授業改善を進めている。

2. 基本的な考え方

藤岡市では、文部科学省への特例校申請により、小学校1年生から外国語活動の時間を設けている。（1・2年生は年間10時間を教育課程に位置づけている。）小学校では平成30年度より新学習指導要領移行期となり、3年生・4年生で週35時間、5・6年生では週70時間の外国語活動の時間を実施してきた。

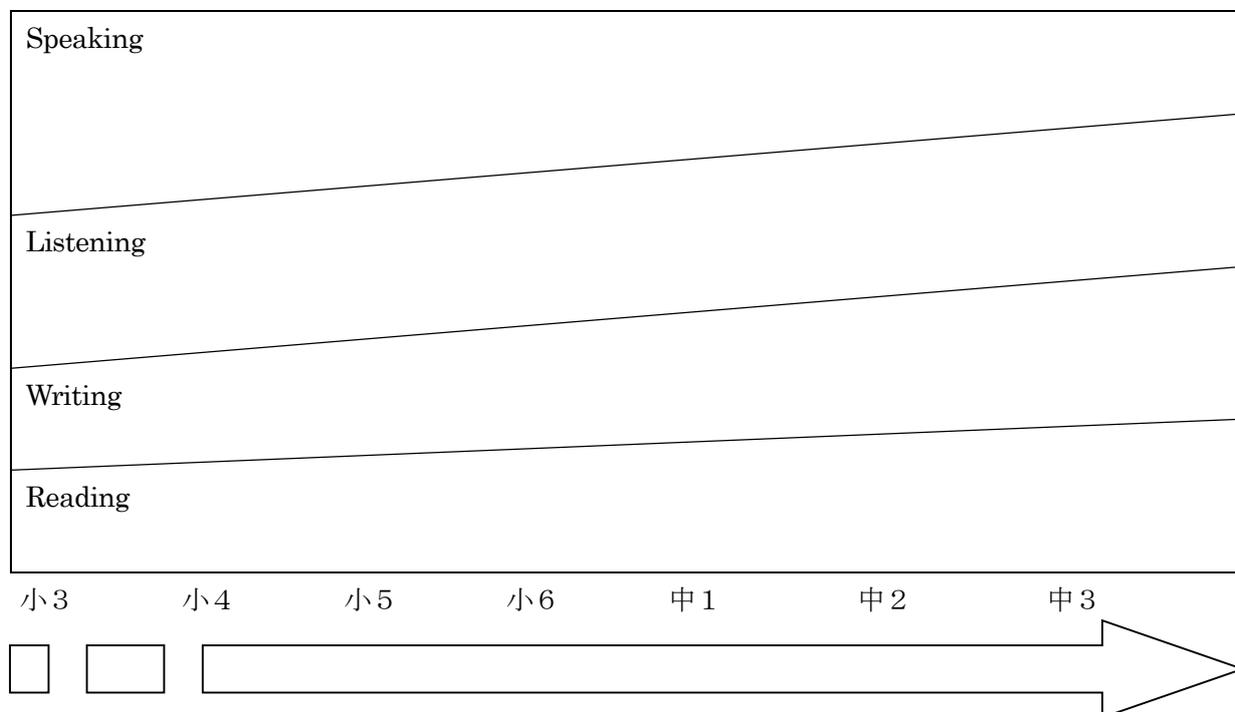
低学年で外国語にふれる楽しさを味わわせ、中学年では **speaking** や **listening** を中心にさらに慣れ親しませる。そして高学年では、**writing** や **reading** にもふれるよう学習内容を設定している。

中学校1年生では、小学校からのつながりを大切にして、**speaking** や **listening** に重きをおきながら **writing** や **reading** にも本格的に取り組むようになり、2年生、3年生と、学年が上がるにつれて4技能をバランスよく育成していくことになる。

同一単元の中で4技能を意識した言語活動を設定するが、年間、中学校3年間、小中学校9年間な

ど様々なスパンで4技能のバランスのとれた授業づくりを進めている。

4技能育成のイメージを図に表すと、次のようになる。



*小1・小2については、**Speaking, Listening** を中心に授業を行う。

3. 具体的な取組

「身に付けた語彙や文を適切に用いて、自分の思いや考えを英語で伝え合うことができる生徒」を目指し、4技能をバランスよく育成するために、次の5つの取組を中心にして、授業改善を進めている。

(1) 英語による英語授業の実施

ALT とのチームティーチングでは9割、通常授業では8割を英語で行い、生徒が英語に慣れ親しみ、英語によるコミュニケーション能力の素地を育成し、教師と生徒が、生徒同士が英語でコミュニケーションし合える授業を目指す。

(2) Show & Tell による、4技能を統合した授業づくりの実施

小学校3年生から中学校3年生までの7年間、1年間に数回の Show & Tell を実施し、児童生徒が見せたいものや伝えたいことを、自分の思いや考えを交えて紹介する活動を積み重ねる。中学年では speaking や listening を中心にコミュニケーションを楽しみ、高学年から中学校へ進んでメモや原稿を書いたり (writing)、互いに読み合ったり (reading)、中学校3年生ではプレゼンテーションにも挑戦する等、児童生徒の発達段階に応じたカリキュラムを作成し、系統的に、4技能のバランスが

とれた英語力の向上を目指している。

また、「はばたく群馬の指導プランⅡ」の P.134 で示されている「単元のつくり方」による単元構想に取り組んでいる。「つかむ」過程では、単元の課題を立てるとともに、課題解決に向けた学習の見通しを持たせる。「追究する」過程では、言語活動を通して新出言語材料を習得させたり、教材の活動や教科書の本文に関する活動に取り組ませたりする。「まとめる」過程では、思いや考えを伝え合う活動に取り組ませ、単元を通じて言えたことやできるようになったことを自覚させるようにしている。

(3) 「Show & Tell 実践集」の作成と活用

Show & Tell を言語活動の軸にすえている。そこで、指定を受けた3年間で行ってきた Show & Tell の題材、使用したワークシート、パフォーマンステストの評価表をまとめた「Show & Tell 実践集」を作成している。9年間の学びを「つなぎ教材」として活用することにより、既習事項を活用してよりよい表現を追究させるとともに、知識の一層の定着を図る。各学年で扱う言語材料を明確にして確実に身に付けさせることにより、段階的に英語力の向上を図る。学年が上がるにつれて、できることが増えることを実感し、学びの達成感を味わうことで、学習意欲の向上を図っている。

また、Show & Tell の様子をビデオ等で記録に残し、上級生の Show & Tell をモデルとして視聴することにより学びのイメージをもたせる。それにより、目指す姿が明らかになり、Show & Tell の活動に主体的に取り組む態度を養っている。

(4) パフォーマンステストの実施と「Show & Tell・パフォーマンステスト系統表」の作成

英語4技能のスキルアップの評価として、Show & Tell を発展させたパフォーマンステストを実施している。各学年の児童生徒の発達段階に応じた内容および実施方法等を検討し、実態に応じた内容や方法で実施する。小学校5・6年生に外国語科が導入されたことに伴い、小学校5年生から中学校3年生までを対象とし、学期に1回程度のパフォーマンステストを計画して実施している。昨年度、県義務教育課 ALT を講師に招き、パフォーマンステストに係る研修会を実施し、指導力（評価力）の向上を図った。

また、Show & Tell とパフォーマンステストの効果的な取組を図るため、「Show & Tell・パフォーマンステスト系統表」を作成して実践している。（資料参照）

(5) Greetings から Interaction につなげる帯活動の実施

毎時間、授業の最初にあいさつ等のやりとりを交わすが、その内容が児童生徒の発達段階に応じたものとなるように、系統的に実施している。小学校低学年では、挨拶を中心に、中学年では挨拶に加えて、日付、曜日、天候等を取り上げ、高学年から中学校に進むにしたがって、おきまりのやりとりだけでなく、好きなこと、朝食や夕食で食べたもの、週末のできごと等について、児童生徒の実態に応じた話題でコミュニケーションできるようにしている。

4. 研究の計画

<p>1年次 (平成30年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○研究体制の確立 ○4技能を統合した授業づくりの実施 ○ Show & Tell の活動を生かしたカリキュラムの作成 ○「Show & Tell 実践集」(「つなぎ教材」)の作成 ○パフォーマンステストの実施 	<p>○研究授業発表会 (中学校)</p>
<p>2年次 (令和元年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○4技能を統合した授業づくりの検証・改善 ○ Show & Tell の活動を生かしたカリキュラムの実践・改善 ○「Show & Tell 実践集」(「つなぎ教材」)の活用・改善 ○パフォーマンステストの改善 ○「Show & Tell・パフォーマンステスト系統表」の作成・活用 	<p>○研究授業発表会 (中学校)</p>
<p>3年次 (令和2年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○4技能を統合した授業モデルの確立 ○ Show & Tell の活動を生かしたカリキュラムの確立 ○「Show & Tell 実践集」(「つなぎ教材」)の研究・開発 ○パフォーマンステストの研究 ○「Show & Tell・パフォーマンステスト系統表」の活用・改善 ○研究成果のまとめ 	<p>○研究授業発表会 (中学校) 本日</p>